

平成 28 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名	東邦ホールディングス株式会社
代表者名	代表取締役社長 濱田 矩男 (コード番号 8129 東証第一部)
問合せ先	執行役員 経営企画本部 副本部長 兼 広報・IR 室長 河村 真 (電話 03-6838-2803)

### 平成 29 年 3 月期 第 2 四半期の連結業績について

東邦ホールディングス株式会社は、本日、平成 29 年 3 月期 第 2 四半期決算を発表しましたのでお知らせいたします。

当社は、当第 2 四半期において、本年 4 月の市場拡大再算定の特例を含む 7.8%の薬価基準引き下げやジェネリック医薬品のさらなる使用を促進する診療報酬の改定などの医療費抑制策が推進される中、医療・健康・介護分野に携わる企業集団として、引き続き顧客支援システム・サービスの提供や、地域包括ケアシステムへの貢献など、付加価値サービス型ビジネスモデルへの変革を推進いたしました。また、11 月 1 日付で「共創未来ファーマ株式会社」を発足し、医薬品の製造受託に加えて開発・製造・販売事業に取り組むことといたしました。当社の経営資源を最大限に活用して、顧客の需要に的確に対応する製造販売一体型のビジネススキームを確立し、高品質・高付加価値なジェネリック医薬品を中心に医療用医薬品を安定的かつ合理的に提供することを目指しております。

当第 2 四半期における医薬品卸売事業では、薬価の引き下げや仕入原価率の上昇、ジェネリック医薬品の拡大があったものの、C 型肝炎治療薬の売上や抗がん剤等の新薬の実績寄与により、売上高は前年同期比 2.5%増となりました。営業利益は当社独自の顧客支援システムの契約件数の拡大や販売費及び一般管理費の抑制効果もあり、前年同期比 49.0%増となりました。

調剤薬局事業については、本年 4 月の薬価改定及び調剤報酬改定に対する適応の遅れにより、売上高は前年同期比 1.0%減となりました。店舗業務の標準化や本部への業務集約等による経費削減策を実施したものの、生産性の改善が進まず前年実績を上回る経費増となり、営業利益は前年同期比 79.7%減となりました。

また、当第 3 四半期以降も引き続き厳しい市場環境が予想されるため、平成 28 年 5 月 11 日に公表しました平成 29 年 3 月期の通期連結業績予想を修正いたしました。

当第 2 四半期の連結業績および通期連結業績予想は、次頁の通りとなります。

1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期業績（連結）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

連結	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益
当第 2 四半期	615,778	7,640	10,569	6,890
前第 2 四半期	602,184	6,110	9,164	4,276
増減額	13,594	1,530	1,404	2,613
前年同期比（%）	102.3	125.1	115.3	161.1
第 2 四半期累計業績予想	641,000	9,500	12,200	7,700
第 2 四半期業績予想達成率（%）	96.1	80.4	86.6	89.5
通期業績予想	1,285,000	18,700	24,000	14,900
通期業績予想比（%）	47.9	40.9	44.0	46.2

2. 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想の修正

単位：百万円（百万円未満切捨て）

連結	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
修正後通期業績予想	1,235,000	13,500	18,900	12,400
当初通期業績予想	1,285,000	18,700	24,000	14,900
増減額	△50,000	△5,200	△5,100	△2,500
増減率（%）	△3.9	△27.8	△21.3	△16.8

3. 修正後通期連結業績予想に対する進捗率について

単位：百万円（百万円未満切捨て）

連結	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益
当第 2 四半期累計実績	615,778	7,640	10,569	6,890
修正後通期業績予想	1,235,000	13,500	18,900	12,400
修正後通期業績予想比（%）	49.9	56.6	55.9	55.6

以 上